

事業所名

児童発達支援事業所 モンキーボット

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7 年

3 月

1 日

|           |   |   |     |         |     |   |       |
|-----------|---|---|-----|---------|-----|---|-------|
| 法人（事業所）理念 |   | 子どもたちが、ゆっくりくつろいだ気持ちで過ごせる家庭のような環境の中で、よりよい療育を目指しています。   |     |         |     |   |       |
| 支援方針      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別療育で自分のペースを確保しながら他児ともかかわる中で、集団生活に必要な力を養っていきます。また、自分の気持ちを大切に（してもらう）ことで、他者の気持ちも大切にできるようかかわっていきます。</li> <li>・一人一人の興味・関心に合わせたプログラムを提供し、“楽しい” “やってみよう” から “できた” “わかった” を引き出していき、満足感や達成感をベースに自己肯定感を育てていきます。</li> </ul>   |     |         |     |   |       |
| 営業時間      |   | 9 時   | 0 分 | 18 時    | 0 分 | 送迎実施の有無   | あり なし |
| 支 援 内 容   |   |   |     |         |     |   |       |
| 本人支援      | 健康・生活   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活習慣をベースに、身辺自立（排泄・着替え・食事など）に繋がるからだの使い方や実行機能をスモールステップでサポートし、自分で身の回りのことをしたい気持ちを促します。</li> <li>・一人一人の興味・関心を生かした手立てと一緒に考え、不安や苦手なことも “やってみよう” “これならできる” と参加の仕方や取り組み方を自己調整しながら、環境とかかわってみようとする意欲を高めていきます。</li> </ul>  |     |         |     |   |       |
|           | 運動・感覚   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な発達の土台となる固有覚・前庭覚・触覚にアプローチする運動・感覚遊びを毎回取り入れ、自分の状態や状況の把握から、周囲の状況や相手の状態への気付きを促し、集団生活に必要な社会性を養っていきます。</li> <li>・様々な体の使い方をするプログラムを提供し、ボディイメージの育ちや、よりスムーズで正確に体を動かす力を養っていき、視覚認知や手先の巧緻性に繋げていきます。さらに運動企画を促すプログラムをたくさん取り入れ協調運動をサポートすることにより、安全で楽しく活動する為に必要な状況に応じた体の使い方を促していきます。</li> </ul>  |     |         |     |   |       |
|           | 認知・行動   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に合わせて量や内容を吟味しながら視覚的情報を提供するなど、必要な情報が、必要な時に、必要なだけ受け取れるような環境設定をし、安心して見通しを持って活動できるように配慮していきます。また、発達段階に応じて、視覚的な手掛かりや指導員の声掛けを減らしていき、“自分でできた” “自分で気付けた” と自発的に活動できるよう促すことで、自己肯定感を高めていきます。</li> <li>・日常生活に必要な数概念や色、時間など様々な概念などは、お子さんが興味がある楽しいと思える活動の中で意図的にねらいを設定し、自然に身につけていけるようプログラムの工夫をしていきます。</li> <li>・気持ちや行動の調整をする場面では、一人一人の気持ちを言語化して受け止め、代替案を提案したりその先に良いことが待っているとイメージを持てるよう提示したりしながら、気持ちや行動をコントロールすることのメリットを伝えていきます。</li> </ul> |     |         |     |   |       |
|           | 言語<br>コミュニケーション   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員との個別のかかわりの中で、モデルを示したり選択肢の中から選んでもらったりしながら、語彙や表現方法を広げていきます。</li> <li>・たくさん体を動かしたり、じっくり遊びこむ中で、伝えたい気持ちを育てていき、そのために必要な表出方法をスモールステップで伝えていきます。また、“伝えてよかった” “また伝えてみよう” と感じられるよう、より具体的に言葉や行動でフィードバックしていきます。</li> <li>・不安な気持ちや伝え方がわからない時でも、安心して言葉以外でも相手に思いを伝えられよう、具体物や写真カード等の操作で伝えることもできるような環境を整えます。</li> </ul>  |     |         |     |   |       |
|           | 人間関係<br>社会性   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の状況や状態を知って譲ったり、自分の思いを適切に主張したり、アサーティブな関係を築いていけるよう指導員自らが手本になるよう行動したり、子ども同士の仲介をしていきます。</li> <li>・より自分の気持ちに合った表出ができるように、丁寧に気持ちを引き出しながら自分の気持ちへの気付きを促し、表出できるレパートリーを増やしていくためのサポートをしていきます。</li> <li>・他児と個室で個別療育を行うことにより、個別療育と小集団療育の両方のプログラムを設定できるような環境を作り、一人一人のペースを確保しながら他児への興味を引き出したり、かかわり方を学べるよう促していきます。</li> </ul>   |     |         |     |   |       |
| 家族支援      | 療育中に一緒に過ごしていただいております。お話をさせていただく機会を設け、実際の指導員のかかわり方を見ていただけるようにしています。また、児童発達支援管理責任者との相談支援をさせていただくこともできます。また、来所が難しい保護者にも、お電話やメールを通して、密に連携を取り、いつでも相談していただくことができます。 |   |     | 移行支援    |     | 保護者の希望により園と連携したり、保護者を介して、当事業所の個別療育で身につけた力が集団でも般化していけるようにサポートしてまいります。また、他の専門機関との連携で協働に努め、お子さんがより快適に安心して社会参加できるようにしていきます。 |       |
| 地域支援・地域連携 | お子さんが所属する園と必要に応じて連携し、それぞれの環境での様子を共有することで、より安心して快適に過ごせるようにサポートします。   |   |     | 職員の質の向上 |     | 内部研修や外部研修の機会を設け、より学びを深めたい指導員が必要な知識を身につけ、実践していける環境を作っていきます。また、担当するケースを通してPDCAサイクルを経験することにより、技術を高めていきます。                  |       |
| 主な行事等     | 季節の製作・お誕生日会・夏のシャボン玉遊び・クリスマス会・避難訓練など   |   |     |         |     |   |       |